

【研究費区分】：ミニ研究環

【研究代表者所属】：都市教養学部 人文・社会系 国際文化コース 人文科学研究科

【研究代表者氏名】：西山雄二

【研究代表者氏名フリガナ】：ニシヤマユウジ

【研究代表者職】：准教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

小林康夫（東京大学・大学院総合文化研究科・教授／共生のための国際哲学教育研究センター（UTCP）・拠点リーダー）

宮崎裕助（新潟大学・人文学部・人間学講座、准教授）

藤本一勇（早稲田大学・文化構想学部・教授）

亀井大輔（立命館大学・文学部・准教授）

Patrick Llored（フランス、リヨン第三大学、講師）

Jérôme Lèbre（フランス、国際哲学コレージュ、プログラム・ディレクター）

Gisèle Berkman（フランス、国際哲学コレージュ、プログラム・ディレクター）

Jiang Dandan（中国、East China Normal University, Si-Mian Institute for Advanced Studies in Humanities, 准教授）

Darin Tenev（ブルガリア、ソフィア大学、比較文学科、准教授）

【研究環組織名】：ジャック・デリダの脱構築思想の国際的共同研究

【研究環 HP（*本研究環組織の HP を作成している場合は、その URL を記入してください。）】

<http://www.comp.tmu.ac.jp/decon/index.html>

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

現代フランスの思想家ジャック・デリダ（1930-2004年）は、西洋の歴史のなかで構築されてきた現前の形而上学、ロゴス中心主義、自民族中心主義を根底的に読みかえる「脱構築」を1960年代に提唱した。その後、「脱構築」の論理や戦略は哲学のみならず、文学、精神分析、政治思想、建築、ジェンダー論などの分野にまで広まり、多大な影響を及ぼした。そのデリダが2004年に他界してから10年後の本2014年には、世界各地で出版や学術的な催事が企画されている。本研究の目的は、①デリダの主要な著作を参照し、歴史的な背景、最新の研究動向を踏まえて、脱構築とその可能性を探求すること、②これまで蓄積されてきた日本のデリダ研究をこの機会に国内外でネットワーク的に展開することである。

研究代表者・西山が発足した「脱構築研究会」のメンバーを軸にして、アメリカ、フランス、中国、ブルガリアとの国際的な学術交流を展開することで、本共同研究は狭義のデリダの専門研究のみならず、日本の人文学の国際的な連携に寄与することができた。国際会議（パリ、上海）での発表4回、国内での学術発表2回、国内外での学術会議での司会4回をおこなった。また、翻訳2冊を刊行し、雑誌特集2冊にも参加するなど、日本のデリダ研究を国内外でネットワーク的に展開することに寄与した。今後の活動としては、とくにフランス及びブルガリアとの連携を強化し、2015年3月にパリにて「日本のフ

レンチ・セオリー」を開催することで、デリダにとどまらずフランスの思想家と日本との関わりを考察する。またフランスからデリダの動物論に詳しいパトリック・ロレッド講師を、ブルガリアからはデリダ研究者のダリン・テネフ准教授を招聘して、日本各地で連続セミナーに参加する。

【学会発表（発表題目，発表大会名，年月を記入）】

- ・発表 «After the End of the World», 国際シンポジウム「崇高と不気味なもの」、ソフィア大学（ブルガリア）、2015年3月2-4日
- ・発表「Workshop ジャック・デリダ『獣と主権者 I』を読む」、東京大学（駒場）、2015年2月22日
- ・講演「ジャック・デリダ—思考の勇氣」、日仏会館、2015年02月20日
- ・発表 "Institution, université, éducation », Colloque: Penser avec Derrida, où qu'il soit, Institut Mémoires de l'édition contemporaine, 11-13 décembre 2014
- ・発表「ポスト実存主義者としてのジャック・デリダ」、ワークショップ「サルトル×デリダ」、立教大学、2014年12月6日
- ・発表 «Quelle voix pédagogique reste-t-il des livres de Jacques Derrida ? », Colloque international : Derrida à venir, Questions ouvertes, L'Ecole Normale Supérieure de Paris, Organisé par l'ENS et l'IMEC, 1-4 octobre 2014
- ・発表 «Après la fin du monde: d'un ton apocalyptique de Jacques Derrida », International Conference: Commemorating the 10th anniversary of Jacques Derrida's death, 上海交通大学, 27th September 2014
- ・発表 « Imaginer la terre abandonnée après Fukushima », Colloque "Fukushima : le politique après la catastrophe. Epistémologie, philosophie, politique, Université Jean Moulin, Lyon, 2014年4月3-4日

【論文発表又は著書発行（発表題目，著者，発表誌又は出版社，年月を記入）】

- ・編著『カタストロフィと人文学』、勁草書房、2014年。
- ・翻訳：ジャック・デリダ『哲学への権利』1、西山雄二・立花史・馬場智一訳、みすず書房、2014年
- ・翻訳：ジャック・デリダ『獣と主権者 I』、西山雄二・郷原佳以・亀井大輔・佐藤朋子訳、白水社、2014年
- ・「ジャック・デリダ アーカイヴの未来へ——没後10年をめぐる動向」、『思想』第1092号、2015年4月号、137-141頁。
- ・«Quelle voix pédagogique reste-t-il des livres de Jacques Derrida ? », *Quadranti - rivista internazionale di filosofia contemporanea*, 2015.
- ・«Ouvrir "l'Association pour la déconstruction" », *Rue Descartes*, n° 82, (In)actualités de Derrida, 2014/3, pp. 117-120.
- ・「超-主権的な Walten の問いへ—ジャック・デリダ『獣と主権者 II』をめぐる覚書」、『現代思想』2015年2月臨時増刊号、139-153頁。
- ・「訳者解説」、ジャック・デリダ『獣と主権者 I』西山雄二ほか訳、白水社、2014年、431-448頁。
- ・「世界の終わりの後で—晩年のジャック・デリダの黙示録的語調について—」、『思想』No.1088、2014年12月号、105-123頁。

【学術会議開催実績報告】

連続セミナー『『哲学への権利』をめぐって』（計4回）、Centre Parisien d'Études Critiques（フランス、パリ）、2015年3月16-26日、主催：首都大学東京ミニ研究環+国際哲学コレージュ、内容：ジャック・デリダ『哲学への権利』をめぐって、哲学、教育、大学の問いを討議するセミナー、参加対象者：一般公開（市民、研究者、大学院生など）、参加者数：のべ80名

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

- ・平成26年度 基盤研究(C)「遺稿調査にもとづくジャック・デリダの脱構築思想の生成史の解明」研究代表者：亀井大輔 採択1400千円
- ・平成27年度 基盤研究(C)「啓蒙期から現代に至るカタストロフィの思想と表象に関する総合的研究」研究代表者：西山雄二 1100千円

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- ・とくになし

【受賞等】

- ・とくになし

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

- ・パリの国際哲学コレージュにてディレクター職を務め、上記の研究方針に則して、フランスでのデリダ研究に寄与した。

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称,発明者,権利者,工業所有権の種類・番号,出願年月日,取得年月日)

- ・とくになし

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名,所属,金額(円))

- ・分担なし